

令和6年度 森林総合研究所九州地域公開講演会

開催日時:令和6年11月29日(金)

開催場所:くまもと県民交流館パレア 10階パレアホール(熊本市中央区手取本町8-9)

参加者数:123名

テーマ:ワクワクする!森林(もり)の博士が語る科学の魅力

今回の講演会では、森林総合研究所九州支所の若手研究者「森林(もり)の博士」が、森林の謎やはたらきについてわかりやすく解説するとともに、今まで誰も知らなかったことを科学的に明らかにしていく「研究」を通し、出会った楽しさや感動を熱く語りました。

また、今回の講演と同様の内容の動画を後日YouTube(森林総研チャンネル)にて配信します。

<https://www.youtube.com/c/FFPRIchannel>

開会挨拶

○九州支所長 伊神裕司

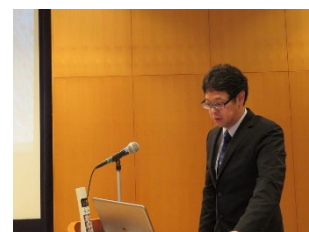


講演内容

○九州支所森林動物研究グループ 鈴木 圭

ムササビとモモンガの春:得意なことで動物の生態を調べよう

野生動物の生態を調べる方法はたくさんあります。ここでは直接観察、観察カメラ、文献収集という3つの方法で明らかにしたムササビとモモンガの繁殖について解説します。みなさんはどんな方法で野生動物の調査をしたいかな?



○九州支所森林動物研究グループ 東川 航

森と水辺をつなぐトンボの生態学

日本に生息する約200種のトンボのうち、半数以上が生息地に森林を必要とすることが分かっています。しかし、森林の中でトンボを見つけるのは難しく、森林とトンボの関係はよく分かりません。本研究では、夏に森林を利用する赤トンボの個体数と周囲の森林面積との関係を調査し、赤トンボが夏に利用する森林の条件を推定しました。



○九州支所森林生態系研究グループ 山岸 極

林業研究への生態学的アプローチ:スギと雑草木との闘い

林業を行う中で、下刈り(植えたばかりの時期に植えた木の周りに生えてくる草木を除去する作業)は最も労力とコストがかかる作業であり、下刈りの省力化やコスト削減は重要な課題です。本講演では、下刈りの省力化およびコストの削減を目的とした下刈り回数の削減方法を模索する中で得られた成果をご紹介します。



○九州支所森林微生物管理研究グループ 安藤 裕萌

樹の病:苗木生産を脅かす菌類

再造林に向けて安定的な苗木生産が求められている中、苗木生産を脅かす菌類による病気の拡大が危惧されています。スギの苗木生産で最も警戒が必要な病気である「赤枯病」は、症状が類似する他の病気と判別が難しく、防除に使用できる薬剤が少ないという問題を抱えています。これらを解決するため、迅速な診断手法と、有効な防除薬剤の探索を行いました。



○九州支所森林微生物管理研究グループ 中村 慎崇

国産トリュフ発生地を調べて分かりつつあること

当研究所では、国産トリュフの栽培方法の確立を目指して研究を進め、2022年の秋に初めて国内の調査地で国産白色トリュフ(ホンセイヨウショウロ)を発生させることに成功しました。

このとき、調査地内では何が起こっていたのでしょうか?本研究では、発生したトリュフの解析からその交配のパターンを明らかにしました。



○九州支所森林生態系研究グループ 森 大喜

熱帯林の土に棲む微生物たち:リン不足の真相を追え!

豊かな熱帯林の樹木を支える土は、一見すると養分が豊富そうですが、実際には養分が少なく、樹木の成長には特にリンが不足しています。熱帯林の土には微生物が棲んでいます、これらの微生物もまたリンが不足していると考えられてきました。本研究では、その学説に反論し、微生物に不足しているのはリンではなく炭素であるとの新たな仮説を唱えます。



閉会挨拶

○林木育種センター九州育種場長 中熊 靖



講演者・幹部集合写真

